

林城ガイド

観光客の方から「小笠原氏の林城はどこにありますか」という質問を受けることがあります。今回は林城(中世山城)を案内します。

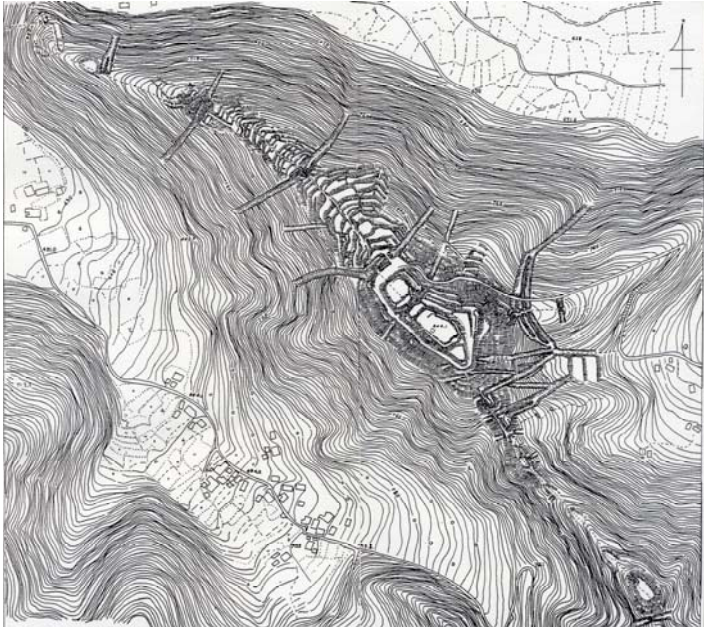
①位置・ルート

林城は大城と小城とから構成されている。名称は金華山城。場所は薄川をさかのぼり山辺小学校手前の金華橋を北から南へ渡ると橋のたもとに登り口がある。ここから東南1kmに林大城の主郭がある。

大城は標高846m、金華橋からの比高は200mである。室町時代の文明年間、信濃の守護小笠原長朝によって築造されたと考えられている。

大城の南側には大崇崎（おおつき）の集落をはさみこむように小城がありともに県史跡に指定されている。小城は大城より新しい縄張りであると考えられている。現在小城への道は現地の人の案内を乞う必要があると聞いている。大城へは金華橋わきから40分で主郭に着く。

自動車という方は金華橋をさらにさかのぼり橋倉の集落から主郭下まで尾根道があり行くことができる。



林大城縄張り図(「松本市史」中世編より)

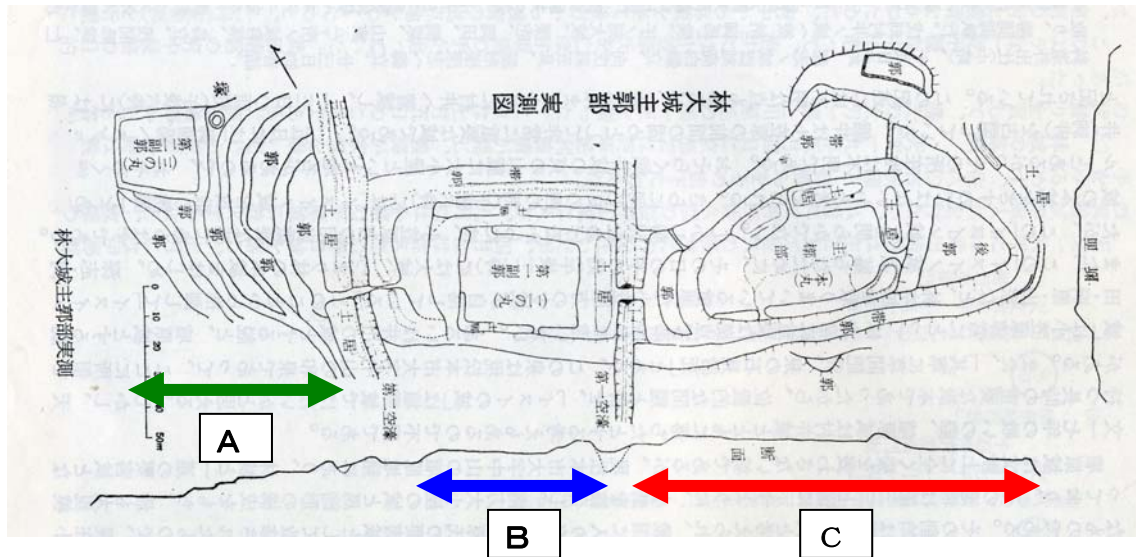


林大城鳥瞰図(郷土出版 「信州の古城」 より)



② 林城案内

○林城の西にある「林集落」の東西の立町は武士の居住地であった。南北の横町は職人・商人の居住地であったと見られている。林城の城下町といえる区域である。



上図は主郭部分の実測図であるが

※上図空堀は^{うねしようたてぼり}畝状堅堀とも呼ぶ。

- A—— ^{おびくるわ}帯曲輪が6段あり隅に三の曲輪がある。平場には倉庫が有ったものと考えれる。
- B—— ここ二の曲輪には^{どい}土居が四方に巡らされている。東西30m・南北23m。土居の底辺部幅員(土居敷き)は最大で9m。高さ3m。
- C—— 本曲輪(本丸)部分南・東・北側に石積みが見られる。東西36m・南北22m。北側の土居敷きは8m高さ2m。南側は土居敷き2m、高さ50cm。

背後の三角形の後郭から大崇崎(おおつき)へ下ることのできる。^{からてすじ}搦め手筋である。その下側に化粧水の井戸がある。

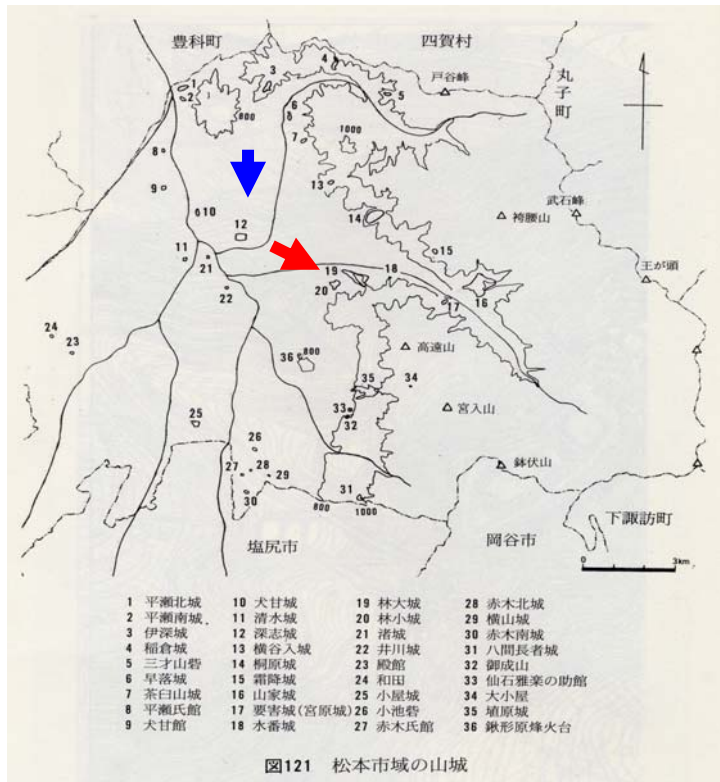


図121 松本市城の山城

③本城と支城

林城は赤い矢印の位置である小笠原氏の本城である。

その回りに配置された城は林城の^{さき}支えの城である。青矢印が深志城である。小笠原氏は本城を中心にここに見るような防衛網を敷いていたのである。



林小城縄張図